

北海道知事杯争奪 北海道スポーツ100選認定
ロール転がしどってん酷ロール北海道大会
開 催 要 領

- 趣 旨 体力と気力、チームワークを一つにして、お互いの力と技がぶつかり合うことをとおして、集まった選手と観衆が一体となって作り上げる祭りの原点を求める。
- 主 催 ノンキーランドふるさとまつり実行委員会
- 後 援 大空町、JAオホーツク網走、(株)北海道畜産公社北見工場、オホーツク大空町観光協会、大空町商工会、北海道
- 日 時 令和8年8月30日(日) 小雨決行
選手受付 午前 8時30分
選手集合/監督会議 午前 9時00分(時間厳守)
開会式 午前 9時20分
競技開始 午前 9時30分
- 会 場 大空町東藻琴『緑とチーズの里ふれあいパーク特設会場』
- 競技方法 【男子の部】 チーム編成は4名とする。(監督と選手は兼ねる事が出来る。)
予 選 500kg【幅120cm】
準決勝 500kg【幅120cm】(予選上位8チーム)
決 勝 500kg【幅120cm】(準決勝上位4チーム)
【女子の部】 チーム編成は4名とする。(監督と選手は兼ねる事が出来る。)
決 勝 300kg【幅120cm】
※乾燥牧草ロールを往復80m転がしタイムを競う。(高さ91cmの障害物あり)
※出場順位・コースの選定は抽選で決める。
※使用する靴は一般的な運動靴とし、野球などに使用するスパイク等は禁止
- 参加負担金 男子チームは1チーム1万円、女子チームは1チーム5千円
- 賞 金 等 (1) 優勝チーム … 北海道知事杯と賞状、賞金(男子20万円/女子10万円)
(2) 男子の部・女子の部2~3位にカップと賞金
男子の部4~8位 に賞金
(3) 特別賞 …上位の成績以外でもお楽しみに
- 競技中の事故 競技中の事故やケガについて、主催者側で「行事参加者傷害保険」に加入しますが、事前の健康状態等には十分配慮してください。
- 参加申込み 参加申込書に必要事項を記入の上、参加料を添えて8月14日(金)までに申込みください。なお、雨天等により競技を中止した場合は、参加料は返納しますが、大会当日不参加の場合は、参加料の払戻しはできませんのでご注意ください。また、参加チーム数は男子の部40チーム、女子の部20チームの計60チームまでとし、申込(入金後)先着順とさせていただきますのでご了承願います。
- 申 込 み 先 ノンキーランドふるさとまつり実行委員会事務局
〒099-3293 北海道網走郡大空町東藻琴360番地の1
大空町東藻琴総合支所 地域振興課 産業グループ
電話(0152)67-7103番/FAX(0152)66-2423番

北海道知事杯争奪 北海道スポーツ100選認定
ロール転がしどってん酷ロール北海道大会
競技規則

1 ルール規則

この規則は、ロール転がしどってん酷ロール北海道大会のルールであり、ロール転がしどってん酷ロール北海道大会において適用する。

2 競技方法

- 1) チーム編成（監督と選手は兼ねることができる。）
男子の部 選手4名とし、交代選手2名を登録することができる。
女子の部 選手4名とし、交代選手3名を登録することができる。
- 2) 参加資格は、趣旨に賛同する健康な方。
- 3) ロール転がしに使用する乾燥牧草ロールは、男子の部500Kg【幅120cm】、女子の部300kg【幅120cm】とし、往復80mの距離を転がす。途中、高さ91cmの障害物がある。
- 4) 出場順位・コースの選定
＜予選レース＞
予選は、4コースで行い、出場順番・コースの選定は抽選とする。
＜準決勝・決勝レース＞
男子の部準決勝は、予選レースのタイムで上位8チームにより行う。
男子の部決勝は、準決勝レースのタイムで上位4チームにより行う。
女子の部は、予選は行わず決勝によりタイムで順位を決定する。
コースは抽選により決定する。
- 5) 使用する靴は一般的な運動靴とし、野球などに使用するスパイク等は禁止する。
- 6) ロールは後ろから押す（軍手の使用は認める。）こと。
ロールの前（進行方向）へは事故防止のため絶対に出ないこと。
- 7) 折返し地点ではロール全体がラインを越えたのを確認して係員が笛を吹き、旗を上げて知らせるので、その合図を確認してから折り返すこと。
- 8) ロールがグリーン地帯(隣のコースとの間に設置している緩衝区域)に入った場合、速やかに自分のコースに戻すこと。グリーン地帯を越えて隣のコースに入った場合は失格とする。
この場合、走路員の指示に従い速やかに自分のコースにロールに戻すこと。
- 9) ゴールは、ロールが完全にゴールラインを越えた時点をゴールとする。
- 10) 違反行為、又は係員の指示に従わない場合は失格とする。
- 11) レース時間については、男子の部、女子の部それぞれ5分間を限度とする。但し、障害物の場所において、これ以上は継続不可能と判断した時、審判長は中止を宣告することができる。
- 12) 判定の異議
競技の進行中に生じた問題に関する異議は監督のみによってレース終了後、直ちに審判長に申し立てることができる。